

## 平成 21 年度 傾斜的研究費 (全学分) 研究報告書

研究代表者 所属	産業技術大学院大学 創造技術専攻	フリガナ 研究代表者氏名	コヤマ ノボル 小山 登	職	教授
研究分担者所 属	産業技術大学院大学 創造技術専攻	研究分担者氏名	チン ジュンフ	職	助教
			陳 俊甫		

研究課題名 海外の技術・デザイン系大学との PBL コラボレーション実施に向けたベースづくりと試行研究

研究実績の概要 (600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究は、昨今の教育界に於けるグローバル化の波と、本学のグローバル化の方針を受け、海外のデザイン系の大学との PBL コラボレーション実施に向けたベースづくりと試行が大きなテーマで、この研究の計画時に於いて候補に挙げていた海外大学は以下の通り。

- 1) 上海交通大学 (中国、上海市)
  - 2) Pratt Institute (米国、ニューヨーク市) : 研究代表者の卒業校
  - 3) Art Center College of Design (米国、カリフォルニア州、パサデナ市) : 研究代表者が以前より深い交流実績あり
- この中から、以前から交流があり比較的容易な米国大学ではなく、今回は、将来的に発展が期待される中国の上海交通大学を選択し、同校を研究分担者と一緒に訪問 (張国良院長、メディア&デザイン学部張帆教授) し、お互いの教育環境の情報交換を実施しコラボレーションのためのメリットや問題点を洗い出した。

その結果、特に大きな障害になるものはなかったが、試行の時期については教育システムの違いがあり、試行に当たり幾つか解決しておく問題などが確認できた。また、それぞれの学科の共通性や卒業研究での学生相互の交流などに意義があるかなどについては双方にメリットが多く、前向きに検討することとした。

この結果、お互いの認識として当学と同校との PBL コラボレーションに関する下地は整ったこととなり、後は、PBL の内容が具体的に出来上がった段階で試行の時期の選択という具体的なスケジュールについて確認する必要があるということとなった。

年度末になり、自分が担当する PBL が具体的に見えてきたので、先方の先生と意見交換をして、それぞれの課題遂行に良い影響が出そうなことが確認できた。今後については、新しい年度に於ける授業スケジュールに当初から組み込み試行を実施していくことで了解した。

## 平成21年度 傾斜的研究費(全学分) 研究報告書

学会発表(発表題目、発表大会名、年月を記入)					
1) Research on Panel Evaluation Methodology in Product Design Development - Key Differences among U.S., European and Japanese Automakers; IASDR(International Association of Societies of Design Research)2009, Soul, Korea, October 2009. 2) A Case Study of Service Design - Areas in which industrial design became involved in LEXUS Vehicle Development; IASDR(International Association of Societies of Design Research)2009, Soul, Korea, October 2009. 3) A Comparison Study on the Use of Review Panel Evaluations for Decision-Making in Vehicle Design by Japanese, European and U.S. Automakers; KEER(International Conference on Kansei Engineering and Emotion Rsearch)2010, Paris, MARCH 2-4 2010 4) A Hypothesis to Establish Platforms for Design Management Focused on Designing Use Experiences; KEER(International Conference on Kansei Engineering and Emotion Rsearch)2010, Paris, MARCH 2-4 2010 5) Study on How to Overcome Business Death Valley utilizing Soft Conception Ability; KEER(International Conference on Kansei Engineering and Emotion Rsearch)2010, Paris, MARCH 2-4 2010 6) Study on User Involvement in Hardware, Software and Service Integrated Type Design Development; KEER(International Conference on Kansei Engineering and Emotion Rsearch)2010, Paris, MARCH 2-4 2010					
論文発表又は著書発行(発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)					
1) 「自動車のデザイン開発プロセスにおける意思決定とユーザー参加についての一考察」日本デザイン学会誌デザイン学研究特集号第17巻第1号通巻65号、P. 14-21、2010年3月 2) 自動車専門誌 Car Styling に論文執筆、NO.192, P.78-84、2009年9月 3) Study of Service Design in LEXUS Vehicle Development, N. Koyama他2名;産業技術大学院大学紀要第3号, 2010年3月 4) 製品の機能創出に関する一考察, 吉田敏・小山登; 産業技術大学院大学紀要第3号, 2010年3月					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
1) 平成20年度(2008年度) 基盤研究(B)(一般) 研究 研究課題名: ハード・ソフト・サービス融合型デザイン開発の戦略的活用手法の研究 採択: 研究協力者 2) 平成20年度(2008年度) 基盤研究(B)(一般) 研究 研究課題名: デザイナーの構想力を生かしたビジネスデスバレー克服方法研究 採択: 研究協力者 3) 平成21年度(2009年度) 基盤研究(B)(一般) 研究 研究課題名: 製品デザイン開発プロセスにおける成果物の非当事者による評価方法の研究 採択: 研究代表者 4) 平成22年度(2010年度) 基盤研究(B)(一般) 研究 研究課題名: 製品開発における統括的評価手法に関する研究 採択: 研究分担者					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
特になし					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
1) OPI事業としてマンスリーフォーラム「デザインミニ塾」を毎月定期開催し好評価を得、日経グローバルの「全国専門職大学院の地域貢献度ランキング」全国1位獲得に貢献。 2) 国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)の活動として、国際Networkづくりやセミナー開催等に参画					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
現時点で特になし					